

大償神楽の情熱映画に

監督きくちさん(花巻出身)短編、上映会

花巻

花巻市出身の映画監督きくち雄一さん(53)の短編映画「大償神楽 吉の舞」の上映会(同市主催)は9月30日、同市若葉町の市文化会館大ホールで開かれた。来場者約150人は伝統芸能を継承する人々の熱い思いに触れた。

ウルトラマン作品などを手がけてきた、きくち監督にとって初のドキュメンタリー映画。同神楽の名手で、9月上旬に92歳で亡くなった佐々木隆さんのインタビューを軸に構成する。昨年秋に撮影し、佐々木さんの演舞、息子や孫と一緒に練習する姿も収録。佐

々木さんは映画の中で「神楽好きに悪人はいない」、「観衆を神様だと思い、感謝して舞っている」など信念を語っている。

トークショーには、きくち監督、大迫高学芸部神楽班の高橋悠斗部長(3年)、大償神楽保存会の阿部輝雄会長(72)らが登壇。高橋さんは「神楽の歴史を知り、すごさを再認識した」、阿部会長は「映画には(佐々木さんの)心の奥の思いが残されている」と感想を話した。

きくち監督は、佐々木さんの親戚でもある。「何十年も第一線に立ち、人に慕われ、実績ある方の言葉は重みがある。神楽という伝統芸能で生きる人の情熱を伝えることが使命だと思った」と言葉に力を込めた。



映画への思いや感想を語るきくち雄一監督(中央)